

2026.Jan.

特集 内定者インタビュー！

学びの場から それぞれの未来へ

大学での学びを力に、キャリアセンターなどの支援も活用して
就職活動に挑んだ先輩たち。神戸芸工大の魅力や、お気に入りの作品、
そして内定につながった就職活動の歩みについて伺いました。

深く学ぶことができました。

アットホームな大学だからこそ、



建築・環境デザイン学科
旧：環境デザイン学科 建築コース
森井 大貴さん
神戸市立科学技術高等学校出身
内定先：株式会社類設計室

写真左上：設計課題「てん。をひろげて」。さまざまな気付きを得ることができた思い出のある作品。
写真右：学生有志のグループで制作した展示台。その他にも先輩や後輩たちと建築イベント、ギャラリー作りなど多くの活動を経験できた。



続きは
WEB サイトへ
→

－ 神戸芸工大に入ってからよかったことは？

先生と学生、先輩と後輩、すべての距離が近くアットホーム。第一線で活躍している素晴らしい先生方から課題の評価をいただけて、気軽にお話できる環境がありがたいですね。また、学年学科・コースを越えた交流があり、自由にプロジェクトを組むことができます。課題作品の模型を飾る「常設ギャラリー」の展示台をつかったり、卒業生と一緒にイベントやプロジェクトをさせていだいたり。自ら積極的にアプローチして、学びを広げ、深めていける。そしてそれを、大学が快く支援してくれる。そんな環境が気に入っています。

－ これまでに手掛けた作品でお気に入りには？

3年生前期後半の設計課題でつくった集合住宅「てん。をひろげて」(*1)です。「多くの人が隣接して暮らしているのに、地域交流が少ない」という社会の問題点を解決するために、まち全体を家とすることで、文化や価値観が違う人とも自然と交流できるようになる仕組みを考えました。友人とペアで取り組んだのですが、話し合いを重ねるなかで、自分の感覚を言語化できたり、相手の考えを吸収したりと、制作を通して大きく成長できたと思います。

－ 就職活動はどのように進めましたか？

ゼミの先生でもある荻原先生の「熱・光・空気のデザイン」という授業で学んだ内容が印象に残っていて、人が快適に暮らせる住環境をつくる設備設計の仕事をしたと考えました。そこで、荻原先生にご相談したところ、私に合いそうな企業を2社ご紹介いただき、会社見学の機会まで設けてくださいました。そのうち1社に絞り、選考を進め、そのまま内定をいただきました。荻原先生が内定先の企業に就職した先輩をご紹介くださり、ポートフォリオのつくり方や面接対策などのアドバイスをしてもらえたことも、スムーズに進んだ要因だと思っています。これらはすべて、神戸芸工大の先生と学生、卒業生も含めた先輩・後輩の距離が近いからこそできたこと。本当にこの大学を選んでよかったです。



写真左：他のゼミの学生と共同で制作した診断アプリ。
写真右：ドールハウス風ギフトボックス。



工房で、朝から晩まで熱中した自主制作。そこで培った思考力が、私の武器になりました。

生産・工芸デザイン学科

旧：アート・クラフト学科
ジュエリー・メタルワークコース

横山 舞さん

兵庫県立三木高等学校出身

内定先：株式会社TASAKI

－ 神戸芸工大に入ってからよかったことは？

とにかくカリキュラムが豊富で、面白いです。デジタルで学ぶ内容だけでなく、自由にコラージュをしたり、想像力を鍛えるためのイメージ表現をしたりと、アナログでの学びも意外とたくさんあります。このように多様な授業を受けることでさまざまな分野に興味を持つきっかけができ、あらゆる視点から物事を見る力、形にする力も身に付いていると思います。

－ これまでに手掛けた作品でお気に入りには？

パッケージデザインの授業で初めて制作したギフトボックスです(*3)。自分が得意とする柔らかな雰囲気タッチや、水彩や色鉛筆などによるやさしい色使いをことごとん活かせるよう、ドールハウス風のギフトボックスを考えました。手描きっぽい質感が伝わる、温かみのある作品になったと思います。先生からも「森さんからこそつくれる、いいものができたね」とお褒めの言葉をいただけて、とてもうれしかったです。



産学連携プロジェクトで考案した「エイリアンおむすび」。商品開発やポスター制作を行った。

続きは
WEB サイトへ
↓

ビジュアルデザイン学科

旧：ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザインコース

森 萌香さん

兵庫県立伊川谷高等学校（現：兵庫県立学園都市高等学校）出身

内定先：大阪シーリング印刷株式会社

－ 神戸芸工大に入ってからよかったことは？

一番は、コンテンポラリージュエリーと出会えたことです。コンセプトのあるジュエリーなのですが、ジュエリーという側面だけでなく、アート作品でもあります。そのコンセプトを考える過程で、自問自答しながら深く考えるプロセスが大好きなんです。とにかくつくるのが楽しくて、授業の課題以外でも、空き時間を見つけては自主制作に熱中し、先生にアドバイスをいただいています。自由に制作でき、学びを深堀りできる環境がとてもありがたいです。

－ これまで手掛けた作品でお気に入りには？

2年生のときにつくった「光」というネックレスです(*2)。波状に形成したシルバーのパーツを、透明感のあるアクリル素材と合わせたもので、シルバーパーツの上部が光を反射して身体に反射光が映るようになっています。パーツの下部は光の粒子をイメージして、一粒ずつ細かく打っていききました。「誰もがそれぞれ違う輝きを持っているので、他人と比べることなく、ひとりひとりの個性を大事にしていれば、ただ生きているだけで美しく輝いているのだ」ということを表現しています。

－ 就職活動はどのように進めましたか？

2年生の前期からキャリアセンターに通い始めました。初めは業種を問わず探していましたが、



卒業制作を製作中。細かいシルバーパーツをつつ繋げるような繊細な作業も楽しい。

「やはりジュエリーを仕事にしたい」と思い、先生に相談。すると、地元神戸の企業であり、先輩も多数働いている株式会社TASAKIを提案してくださいました。さらに、同社で働く卒業生もご紹介いただき、社内のお話を伺ったり、インターンシップに参加したりするなかで、「この会社で働きたい！」と心から思うようになりました。入社後は、ジュエリー製作の職人として働きます。授業や課題を通して身に付けた高い技術力、自主制作のコンセプトづくりで培った深く考える力を武器に、デザインに込められた想いを汲み取り、しっかりと形にしていけるジュエリー製作の職人になりたいと思います。そして、いつかは企業の顔となるハイジュエリーの製作に携われるようにしたいです。



続きは
WEB サイトへ
→

写真左：アクリルとシルバーパーツがきらめく作品「光」
写真右：指紋をモチーフにしたリング。



メディア芸術学科
旧：映像表現学科 アニメーションコース
水本 妃南さん
内定先：某アニメーション制作会社

－ 神戸芸工大に入ってからよかったことは？

少人数制で、活躍されている現役のアニメーターや映像作家である先生方と、気軽に話しができることです。授業内容を深堀りした話や、アニメ業界の最新情報などを、雑談のなかで日常的に聞くことができ、とても贅沢な環境だと思います。また、ほかの分野やコースの授業を自由に受けることができるので、多くの視点から自分の「好き」を追求し、総合芸術としてのアニメ制作に活かすことができました。さまざまな分野で自分の「好き」を認識できたことは、就職活動における面接の場でも大いに役立ったと思います。

－ これまでに手掛けた作品でお気に入りには？

1年生のときに初めてひとりで制作した作品「アイの食卓」です(*4)。食事を通して伝わる愛情を表現しました。今、卒業制作でつくっているものも食事がテーマなのですが、大事にしていることの芯は変わらないようです。今観ると、全体のカメラワークを意識した絵コンテになっていないなど、当時の技術不足を感じますが、私が大切にしているものの原点が詰まっているという点で、大切な作品です。

－ 就職活動はどのように進めましたか？

アニメ業界の選考は4年生の夏に始まります。私は春休みから、週に4回ほどキャリアセンターに通い、エントリーシートや面接対策、選考の振り返りや日常生活の相談まで、手厚くサポートしていただきました。何社かエントリーしましたが、なかなか上手くいかず、キャリアカウンセラーの先生と涙ながらに反省会をしては、励ましていただく日々。先生が私の短所を長所だと言い続けてくれたことで、少しずつ前向きになると同時に、就職活動を通して自分のことを好きになることができました。内定先は、歴史あるアニメーション制作会社です。何よりも、就職活動のなかで好きになった「素直な自分」でいられそうだとイメージできたことから、この会社決めました。これからは私がアニメを通してさまざまな人と作品、人と人、人と地域などをつなげるきっかけをつくっていけるようにしたいです。



「アイの食卓」の1シーン。



写真上：就活の内容や気付いたことのメモがびっしり。
写真下：現在制作中のアニメーション。ここにも食べ物が登場。



続きは
WEB サイトへ
→